

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 370 号	氏名	望月 聡之
学位審査委員	主査	下川 功	
	副査	永安 武	
	副査	中尾 一彦	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、肝細胞移植の臨床応用を最終的な目標とし、ラット肝不全モデルを用いて、移植肝細胞の生着、増殖性を検討したもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 ドナー肝細胞をレシピエント細胞と識別するための方法、四塩化炭素前処理による既存肝細胞の増殖抑制、肝細胞増殖刺激のための肝部分切除など、in vivo で行った研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、移植肝細胞の生着、増殖率は、既存肝細胞の増殖を抑制しつつ、肝部分切除により再生刺激を誘導した場合、最大となることを明らかにし、今後の肝細胞移植の臨床応用への進展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は肝不全治療の臨床研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			